



■炭疽病 シクラメン炭疽病は次の2種の菌によって起こる病気です：

- ✓ **Gloeosporium cyclaminis** (*Cryptocline cyclaminis* と同義)
シクラメンが唯一の宿主植物とされています。最近では温室内の衛生環境が良くなり、この菌による炭疽病はあまり見られなくなっています。
- ✓ **Glomerella cyngulata** (*Colletotrichum sp*)
アナモルフ(無性もしくは不完全)では *Colletotrichum gloeosporioides* とも言われます。シクラメンを含む多くの一年生植物や多年生植物で発生します。この菌により起こった炭疽病は壊滅的です。発生および繁殖には高温を必要とします。高温地域では大損害の原因となる恐れがあります。

1- 病徴

Colletotrichum gloeosporioides によって起こる被害は *Cryptocline cyclaminis* のそれよりもかなり深刻です。株の部位を問わず被害を起こします。

Colletotrichum gloeosporioides

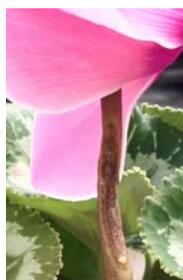
株の中心部では葉や茎に隠されているため、病気を見つけるのは難しいです。花芽や葉芽は小さいままで、褐変、アーチ形、枯れ、焼けたようになります。サーモンピンク色の孢子塊が見られます。これらが炭疽病の特徴とされています。



ステムもボトル状の形になります。つまり、基部は膨れ、上部は細く干からびます。

© photo PBG

ステム は塊茎部分から、花柄ではがくの部分まで、葉柄では葉身まで黒斑に襲われます。(後者の方は萎凋および黄化し、壊死することもあります)。続いてサーモンピンク色の孢子塊を形成します。



萎凋により葉が黄化し、最後に壊死する

葉では、感染したての頃は、小さく丸い水性で薄緑色の斑が現れます。組織が壊死し、褐色の枯斑となり、回りに広がっていきます。菌はここに生息します。斑はそれ同士が繋がるまで拡大を続け、感染被害を進展させます。



病斑は緑色から褐色へと変わる

初期に丸い斑が現れるのは炭疽病の特徴ですが、必ずしもそうとは限りません。感染初期から別の形で現れることもあります。



葉への被害が進展している

際立って高温多湿の場合は花弁にも被害が及びます。葉のそれと同じように斑が現れます。



Cryptocline cyclaminis

塊茎が変色し、凹みが見られるようになります。萎凋病と間違えやすいです。

Colletotrichum gloeosporioides による感染よりも病気の進行は遅いです。



株の中心が焼けている



■炭疽病

II - 繁殖

基本的に、病気は高温(25 /30°C) および相対湿度が高い(80% 以上)条件で発生します。

胞子は湿ったエリアで形成され、これがかん水時の水や雨などで飛散します。昆虫や人の手によっても広がります。

Colletotrichum gloeosporioides は繁殖するのが速いです。1~2週間で急激に被害が蔓延します。

宿主植物

他の植物にも菌が宿主していることが良くあります。特に：ランキョウ、イチゴ、ニシキギ、ペゴニア、クチナシ、グロキシニア、その他の植物。

これらの植物からシクラメンが感染するリスクがあります。一緒に栽培するのを避けてください。

III - 予防

薬剤で防除する方法もありますが、費用がかかるうえに完全に効果を示すとは限りません。従って、まずは衛生管理を行うことと、栽培管理しながら菌の感染を防除しつつ、薬剤を使うようにします。

Gloeosporium cyclaminis はあまり見られなくなりました。温室内の衛生環境が改善されている今日では、この菌の繁殖を防除できているようです。

一方で、*Glomerella cingulata (Colletotrichum sp)*は現在でもよく見られます。この菌の防除には厳正に対処しなければなりません。

菌の感染を避けるためには、次の点が大切です：

- ✓ 衛生管理：
 - 苗を置く前に、栽培ベンチを良く洗浄、除菌してください。
 - 栽培に用いる用具は、清潔かつ除菌されたものを使用してください。
- ✓ 栽培管理：
 - 潜在感染の恐れがある他の植物とは離れたところでシクラメンを栽培してください。
 - 国や地域により屋外で栽培する場合は、(雨やかん水による)水はねのリスクを極力避けてください。
 - スペーシングを充分に行ってください。
 - 多湿にならないよう、温室を換気してください。
- ✓ かん水管理：
 - 適切なかん水システム(底面、マット、点滴給水)を使用し、株が常に濡れた状態にないようにしてください。
 - 根鉢形成期では、上部かん水を朝方に行うようにしてください。日中に株が乾きやすくなります。
- ✓ 肥料バランスは $N / K_2O = 1/2 \sim 1/3$ をおすすめします。組織を強固にし、病気への抵抗力を高めます。
- ✓ 温室の虫に注意してください。発病株からその他の健全株へと胞子をあちこちに運び散らします。

もしも感染した場合：

- ✓ ただちに発病株を除去してください
- ✓ 薬剤処理を頻繁に行ってください(下記参照)

薬剤予防

いくつかの化学成分は予防効果を示しています：

有効成分	散布量	微量散布の量
AZOXYSTROBIN (アゾキシストロピン) 25%	100 cc/hl	1l/ha
CYPRODINIL (シプロジニル) /FLUDIOXINIL (フルキシオニル)	80gr/hl	0,8 Kg/ha
PROCLORAZ (プロクロラズ) 46%	50gr/hl	0,5 Kg/ha
IPRODIONE (イプロジオン) 50%	15cc/hl	0,15 l/ha

高温多湿の環境では、薬剤防除を頻繁に行います。根鉢形成期におおよそ1週間に1度行うようにします。かん水は上部から行うため、水はねが生じ繁殖リスクが高まります。

リスクが低くなる頃には(気温低下、水はねの恐れがないかん水方法へ移ったとき)、薬剤防除の回数を少なくします。

株が日中に乾くよう、防除は朝方に行うことをお勧めします。

ご注意：植物衛生処理剤の規制、認可が頻繁に変わる今日、また、世界各国の規制が異なるため、薬剤使用において最新情報をご案内することは大変難しくなります。各自で植物防疫課にお問合わせいただき、最新の植物衛生処理剤の規制、認可情報をご請求いただくようお願いします。